

第3回四万十市立小中学校再編検討委員会 会議録（要約）

- 1 日 時 平成28年11月15日（火）
開会：18時30分 閉会：20時30分
- 2 場 所 四万十市役所6階 第1・第2委員会室
- 3 出席者 〔委員〕 庄崎郁信、土森正一、黒川広美、宮崎久、上岡敬、加用武士、
浜田隆文、大崎朗、刈谷隆子、岡島喜三、藏内章夫、
宮下貞子、網師本卓己
〔事務局〕 教育長 藤倉利一
教育次長兼学校教育課長 矢野依伸
学校教育課長補佐 山崎行伸
学校教育課主監 今城季紹
学校教育課総務係長 武田安仁
- 4 議 事 (1) 第2回検討委員会の内容確認について
(2) 四万十市における小中学校の望ましい教育環境（規模等）について
(3) 小中学校配置計画（案）について
(4) その他
- 5 会議の要領
(1) 開会
○課長補佐 〔開会を宣言〕

(2) 会長あいさつ
○会長 〔あいさつ〕

(3) 配布資料の確認
○課長補佐

(4) 議事
【議事①】第2回検討委員会の内容確認について
○会長

議事に入らせていただきます。第2回検討委員会の内容確認について、事務局から説明をお願いします。

○総務係長

- ・資料1のうち「確認・決定事項」について確認

○会長

質問、ご意見等ありましたらお願いいたします。

(全員なし)

【議事②】四万十市における小中学校の望ましい教育環境（規模等）について

【議事③】小中学校配置計画（案）について

○会長

資料2を基に具体的な配置計画（案）を準備しています。前回の会議で「望ましい規模」と「配置計画」はいっしょに検討した方がいいという意見がありましたので一括して事務局から説明します。

○総務係長

〔資料2について説明〕

- ・「基本的な考え方」については、本日お配りしている配置計画図の基となる考え方ということとまとめている。
- ・「望ましい学校規模等の目安」については、本日の配置計画（案）は、現在の再編計画（平成20年3月策定）の規模を適用しているが、その「規模」についての考え方を示している。
- ・「統合後の通学条件の目安」については、P4の国の資料を参考としている。

〔資料3・資料4・資料6を一括して説明〕

○会長

資料2の、「基本的な考え方」としては、子どもたちのために一定規模以上の集団が必要である、また教員の確保も大事である、複式学級は早期解消が必要であるという内容です。「望ましい学校規模」としては、小学校で90人、中学校で150人以上、限界規模としては、小学校で60人以上、中学校で70人以上が必要であるということを基に、今回の配置計画を作成しているようです。

また、通学条件は、小学校で概ね4キロ、中学校で概ね6キロ、通学時間の目安は概ね

1 時間以内、ということを前提としています。

資料について、質問等ありましたらお願いします。

○委員

望ましい規模の説明で、1 学級に 15 人程度（5 人×3 班）とありますが、3 班とはどういう意味ですか。

○会長

同じテーマに対して、複数の班でディスカッションできるということです。

○委員

二つの意見では対立で終わる場合もありますが、もう一つあれば広がっていくという意味で 3 班としているのだと思います。

○委員

資料 2 に「免許外指導の解消」とありますが、「免許外指導」について教えてください。

○教育長

中学校は 9 教科ありますが、それぞれ免許が違います。中学校で 2 学級になると教員は校長を入れて 6 名しか配置できません。そうした場合、教えることができるのは 5 教科ということになり、免許外の教科を教えるということになってきます。

○会長

免許外で教えることはかまわないということですか。

○教育長

県教育委員会の許可を受ける必要がありますので、許可を受けて指導しています。

○委員

遠距離となった場合スクールバスとなりますが、中学校の部活動で遅くなる時はどうなりますか。

○教育長

現在（西土佐）は、2 便で対応しています。

○委員

朝練は対応できますか。

○教育長

現在（西土佐）のところ対応できておりません。

○会長

通学問題にどう対応するかは、具体的な計画ができたときに議論の対象になってくると思います。

○委員

保育所の問題もセットで考える必要があると思いますが、この会では保育所の考え方などは出ないのですか。

○教育長

保育所は福祉事務所の管轄ですので、福祉事務所の方で議論しているのではないかと思います。

○会長

ほかに質問等ありませんか。

ー全員なしー

それでは具体的な検討に入っていきたいと思います。ご意見等あればお願いします。

○委員

小学校で4キロ、中学校で6キロという基準は全国的には適正かもしれませんが、ある程度柔軟性をもって取り組んだ方がいいという気がします。

○会長

地域の実情に応じて柔軟に対応していくこととしたいと思います。

○副会長

複式解消ということで再編して、その数年後にまた複式になる可能性はありますか。

○総務係長

児童生徒数の推計では、大用中が35年度には5人、八束中が40年度に16人、東中筋

中では36年度には21人という推計になっていますので、何年か先には再度統合を検討しなければならないことも考えられます。また、もう一つ心配な点があります。児童生徒数の推計では、校区外就学等は反映していませんが、現在、中村中、中村西中へ部活動等の理由で校区外就学している生徒が多いということもありますので、推計値よりも減ることも予想されます。

○委員

県立中学校への進学については反映させていますか。

○総務係長

各学校の県立中学校への過去6年間の平均進学率を用いて反映させています。

○委員

例えば利岡地区でしたら、地区によっては蕨岡よりも中村小、中村中にいくのがいいということになってくると思いますが、そういうことを考えると、校区の地区割りを新たに設定することも必要ではないかと思います。

○会長

北部の4校の統合は地理的に無理ではないかということですね。他の地域は、意外とまとまっているように思いますが。

○委員

確かに大川筋から蕨岡に通うのは課題がありますが、どこかでクリアしなければならない問題だと思います。

○委員

利岡に限って言えば、案4か案5のように最初から大規模に統合した方がいいと思います。

○委員

小学校を6校にするか8校にするか、また中学校は3校にするかどうかということを決めていった方がいいと思います。

○会長

小学校の6校と8校の違いの一つは、北部の学校を中村小学校に統合するかどうかです。北部の川登、利岡と、大用、蕨岡を分断すると複式のまま残ってしまうので、それを解消するとなるとどうしても統合しなければならないということになります。

○委員

望ましい規模にしておかないと、すぐにまた２回目の統合ということにもなりかねません。また、八束地区は下田地区とのつながりが濃いようですので、下田と八束が一緒になる方がいいと思います。

○会長

今の意見でしたら、小学校は６校で、八束が具同、下田のどちらと統合するかということになります。

○委員

三つ又から中村まで通学するのは、小学生の低学年には負担が大きいのと思いますが。

○委員

三つ又から蕨岡までの時間は、子どもさんを乗せながら来ると片道１時間、往復２時間になります。小学生の大事な時期に睡眠時間、学校にいる時間を除くと約６時間から８時間になりますが、そのうち２時間をバスの中で使うことになります。そういうことが子どもたちの発達を考えた場合どうなのかということも考えていく必要があると思います。中学校では特に部活の時間もありますので負担が大きくなってくのではないかと、また子どもによる格差もでてくるのではないかと思います。また、中村中学校の規模を残すなら、中村中学校を統合校の中央にもっていく考え方も将来的に必要なになってくると思います。小学１・２年生は特に往復２時間の通学時間は厳しいという気がします。

○会長

その部分は異論はないと思います。

○委員

今複式学級で授業を受けている地域の人たちが、それを解消して遠くへ通う方がメリットが大きいのか、逆に遠くへ通うことを考えると今の複式学級の方がメリットがあるのか、そういう問題もあると思います。

○会長

統合によって小学校で通学時間に問題があるのは、富山と大川筋あたりで、それ以外のエリアでは、そういった問題はないようですね。そういったところが一番の課題になると思います。

○委員

児童生徒数から中学校でいえば将来的には3校、4校になるのかなと思います。小学校の場合は、いろいろと問題があるので、できれば近いところの方がいいと思いますが、2回の統合をさせないようにするなら1回でしなければならないので、その兼ね合いが難しいと思います。

○委員

将来の子どもたちのことを考えれば大規模にした方がいいと思います。小学校低学年の通学時間については不安なところもあります。

○会長

配置計画案では、小学校が6校か8校、中学校が3校か5校となっていますが、これについてご意見をお願いします。

○委員

西土佐地区も何年かかけて統合され、広大なエリアではありますが、遠い地区の子どもさんのご家庭から、負担の声などはありませんか。

○委員

私の聞いている範囲では、あまり出ていないです。そういう内容も十分議論されたようですが、児童生徒が少なくなるということから仕方がないというところでは。

○委員

仮にこの配置計画で校区を分けたとして、区域外就学の制度は、今までどおりですか、変更することになりますか。例えば、部活動を理由とした区域外就学は可能としますか。

○教育長

区域外就学は弾力化の方向に向いていますので、理由があつての校区を越えた通学というのは、これからも認めていくことになると思います。

○委員

中村中学校は24人位、校区外からきているようですが、ずいぶん前から続いているようです。

○会長

中学校について、西土佐を入れて3校という案が出ています。案の違いは、八束中学校を

中村中学校と統合するのか、中村西中学校に統合するのかというところです。

○委員

八束小学校を具同小に統合して、八束中を中村中に統合するのはおかしいと思います。

○会長

小学校、中学校を統一する必要があると思いますが、実際、どういう枠組みがいいんでしょうか。

○委員

下田と八束が統合するという話は以前からあったようですが、大きい川を渡って通学するというのが、特に地震のときなんかは恐く、感覚としては川を渡らない方が安心感があるような気がします。

○委員

下田の郵便局から八束に配達されたり、昔からつながりはあったようです。

○委員

消防団も下田と八束は協力体制にあるようです。

○委員

八束は具同と統合する方がいいと思います。部活にしても強い学校は中村中、中村西中ですので、部活を理由で校区外に就学する生徒はいなくなると思います。八束からも少数ですが中村西中に通っています。

○会長

中学校について、大川筋や蕨岡を中村中学校に統合することについてはどうでしょうか。

○委員

適正規模から、そうならざるを得ないような気がします。

○会長

今までの話で行くと、案2か案4ということになります。中学校はこれで仮決定としたいと思います。

○委員

将来心配されている津波のことを考えると、下田小、竹島小は、東山小と統合する方がいいと思います。

○会長

ここで10分間休憩とします。

— 休憩 —

○会長

それでは再開とします。

先ほど、下田小と竹島小を東山小に統合してはどうかとの意見が出ましたが、事務局の推計では、今後、東山小は児童数が増え、中村小は減ってくる見込みのようですが、中村小との統合というのはどうでしょうか。

○委員

それでは津波対策として解決にならないと思います。

○会長

川登、利岡、蕨岡、大用の4校がいっしょになるのは課題があるように思いますが。

○委員

利岡から蕨岡に行くのは課題があると思います。常六から蕨岡に通うのは大変かもしれませんが、負担がかからないような方法を考えた方がいいと思います。

○会長

川登小、利岡小を中村小に統合するというのはどうでしょうか。三つ又から中村というような地理的な課題はないでしょうか。

○委員

勝間川からは大変だと思いますが、蕨岡に行くよりは中村に行く方がいいということになると思います。

○委員

地区によって、学校を選べるようにしたらどうでしょうか。

○委員

校区を自由にするということも考えていかなければならないと思います。

○会長

希望が少ない学校は廃校になるということになります。

○委員

大規模の学校もいいですが、選択できる学校も今からは必要ではないかと思います。大きい学校についていけないとか、そういう子どもへのケアができるような学校を構えてあげることも必要と思います。

○副会長

中学校を2校（中村地域）にするというのはどれくらいの年月をかけてやっていくか、またそのあと、小学校を再編するのであれば、そこからどれくらいの年数をかけてやるのか、それによって人の流れも変わってくると思います。中学校が2校になれば、新しく家を建てる時には、それを考慮して建てる人もでてくると思います。

○会長

そのあたりの方針とかはありますか。

○教育長

それを踏まえて議論していただきたいと思いますが、10年、20年先ではいけないと思います。

今日は教育委員会事務局の案を出させていただいてますが、先ほど委員から出された意見（津波対策）について「こういう考え方もあるんだ」ということを考えさせられました。宮城県の大川小学校の例もありますが、そういうことも考えて学校の配置を考えていかなければならないと思いました。教育委員会として、足りないところも沢山あると思いますので、いろいろなご意見を出していただいて、特に小学低学年は中学生と体力は違いますので、そういうことも考慮した計画にしたいと考えています。

○会長

小学校については、案2ということで、中筋小と東中筋小、具同小と八束小、そして竹島小と下田小については東山小と統合する方向で検討するという、残りの北部（大用、蕨岡、川登、利岡）については一番時間をかけて議論しなくてははいけません。

○教育次長

案2の中筋小、東中筋小の統合については、推計で69名となります。そこから先も減少

していこうと思います。その解消として、一挙に具同小と統合する必要性があるのではないかと感じています。それから、先ほどご提案がありました下田小、竹島小を東山小と統合するということも検討していく必要があるだろうと、それから富山地域や大川筋地域については、大きな流れから将来を考えた場合、中村小への統合が基本になると考えています。ただ、小学校の通学時間の問題など北部地域は課題があると考えていますので、いろんなご意見をいただきたいと思います。

○会長

今のお話だと案4ということになります。東中筋、中筋が将来、児童数が減るということが解っていませんでしたが、減っていくようであれば考慮しておく必要があります。

○教育次長

住基をベースとした児童生徒数の推移としては推計できていませんが、総合戦略の人口推計では、市全体の人口が大きく減少していく推計になっていますので、児童数も減少していこうと考えています。

○会長

この会はあと、何回開催予定ですか。

○総務係長

予定では、あと2回です。

○会長

中学校は3校という方向とし、小学校については課題がありますので、次回もう少し議論するということとします。またそれに付帯して、ケアしなくてはいけないことなどを議論したいと思いますので、それまでに意見をまとめておいていただきたいと思います。

以上で会議は終了しますが、事務局から事務連絡があるようです。

○総務係長

次回の会議は1月下旬に開催したいと思います。また、広報12月号や市ホームページに当会の活動内容を掲載する予定です。

以上です。

(5) 閉会

○藤倉教育長 [あいさつ]